

令和 6 年 10 月 25 日金曜日

13:00～14:00

対面及び ZOOM にて

定期巡回のクローバー

令和 6 年度第一回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議録

出席者：内海（醍醐学区民生委員会長：欠席）、高田（民生委員）、三好（老人福祉委員：欠席）、西村（醍醐北部包括センター所長：ZOOM）、山田（㈱四季代表取締役：ZOOM）、浅田（同和園居宅介護支援事業所所長：ZOOM）、松井（地域・レインボーカフェ運営参加者）、星野（クローバー代表）、立脇（クローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

（１）クローバー挨拶、構成員紹介（別紙：構成員名簿あり）

代表星野より挨拶

京都市の要支援、要介護認定者 1 万人増加している。全国に比べて一号被保険者の中での要支援・介護認定者率も全国では 19%だが、京都市は 25%となっている。単身世帯率が高いことが要因のようである。山科区は 24.5%と幾分お元気な方が多いのでしょうか。それに比べ伏見区は要支援・介護認定者数については京都市内で山科区は東山区を抜いて一番になっており 24%のところ醍醐地区は 27.5%で京都市内の地区単位で第二位となっている。

山科区は地域包括支援センター 5 か所、醍醐は 2 か所でありいづれも多く認定者を抱えておられる事が想定でき、めまぐるしく活動されているのではないかと推察するとともに、少ない人材で本当に支援が必要な方のニーズを拾いきっていく事の課題感を感じている。

居宅の人材不足も顕著で「ケアマネ難民」という問題もあるようで担当が見つかるまでに 1 ヶ月 2 か月かかることもあるようである。特に要支援の方々を担当するほどの余力はないと回答される居宅介護事業所も増えているようである。若い世代のケアマネ希望者も少なくなってきたようで、介護保険創世期に資格取得されたベテランケアマネジャーが定年などでリタイアされてきた現実もあり、ケアマネジャーの更新制の撤廃など制度面も工夫を検討されているが、こういった実情の中で一つ一つの事業所がどうやって必要な支援を醍醐の皆様へ届けていくか、ということを考えていかねばならないと考えている。

（２）R6 年度自己評価・外部評価について（別紙有り）

記載内容、本日の会議をもとに外部評価をお願いしたい。11 月末から 12 月上旬に回収のご連絡を差し上げたいと思っている。

○醍醐事業所〔山科サテライト含む〕について

- (内入院等 4 名)

R6 年 3 月末 35 名（うち入院 2 名） 3.1

現状として醍醐のご利用者数と山科のご利用者数は逆転傾向に有り、山科のご利用者が増え、醍醐は減少している。地域的にも山科の方が広く、包括支援センターの数も多い。

毎月醍醐と山科を各1日ずつ居宅や病院の地域連携室、包括、訪看などを訪問し周知活動を行った。

- より効率的な情報共有のために・・・電話偏重の方法から舵を切り、社外事業者とのチャットワーク、LINEWORKSの実用開始をしている。実際支援チームでグループを作り情報共有するなど高い効果を得ている。

浅田氏：内部には LINE ワークスを活用し、外部には相手に合わせて色んなツールを使い分けしている。転記作業も割愛出来、うまく使って効率化には繋がっているが、文字だけでニュアンスが伝わらないとか、急ぎの時の連絡等、一定のルールは必要かと感じている。

TUMUGI プロジェクト(裂き織り活動；別紙有り)

- ・地域密着サービスの使命として地域住民等との連携をとっていけるように。また、クローバーがここに有り、地域の皆さんと一緒に地域で活動していくことを知っていただくように活動を広げている。地域の方々が気軽に介護のことなど何でも相談できるように。

また、毎回話題にあげているが、地域で困っている方等の発見に繋がれば

・北部包括の西村所長のご紹介により地域コーディネーターの斉藤氏、たのしい家醍醐の木村氏とミーティングを行い、たのしい家のご利用者と裂き織りの手芸を行った。

TUMUGI プロジェクトに参加していただき、協力いただいている松井氏へ意見もらう

●松井氏参加の感想など

多世代交流を一緒にやっている仲間に声を掛けてやり始めたところだが、興味のある方が何人か集まってきている。どう広がっていくのか分からないが、裂いていく方、織っていく方、紡いでいくということはとても良いことだと思うが、「人を紡いでいく」ことがこれからだね、と立脇さんとは話している。

➡目指しているのは地域の人と人の縁を紡ぐこと、ゴールは見ているが、それまでの道のりをどう向かって行けば良いのかを模索している。

・10月26日土曜日 和光祭参加(チラシ参照)

ワークショップ開催。

○地域活動における地域で求められていることはどういったことがあるでしょう？

前回の会議において独居の高齢者による近隣住民への迷惑行為の案件があったがそのようなこともこの会議であげられればと考えている。例えば包括に相談するほどではないが気になるというような。

・前回4月以降、どんな困ってらっしゃるケースがありますか？

・地域参加において出来る限り色々な場面で参加していき、地域に溶け込み地域の事業所として根付いていければと考えているが、何か行事予定などありますか？

●高田氏、お願いします

植木が伸び放題になってゴミもたくさん溜まっている気になるお宅がある。みんな気にしているな、というのは感じていて安心はしているが、どこまで踏み込めば良いか、どうしたら良いのか、と思案する。民生委員というのは独居の高齢者が対象だが、そのお宅は家族が同居もされていて役割外のことでもあり悩んだが、西村所長にはご相談するといつも親身に聞いてくださるので助かっている。

➡必要に応じて、訪問の途中でチラッと様子を見るなど協力もできるかと思うが。どこまで包括に相談すれば良いのか、というお悩みもあるのではないかな。

西村氏：民生委員は守秘義務もありなので、分かったことがあれば情報提供はしようと思っているが、あくまでボランティア的な活動なので負担感はあるべく軽くし、なかなか民生委員のなりても少ない中「やっても良いよ」と言ってくれる方が増えるようにしていきたいと思っている。(5年10年前からずっと全国的にはなり手が少ないという事実はある)

しんどくなる前に情報提供して頂き、バトンタッチできる良いタイミングでやり取りが出来ればと思っている。地域をさりげなく見守るという役割を果たしてもらっただけで民生委

員さんは良いと考えている。しかしながら包括職員には出来ない重要な役割。

(5)前回の質問：定巡デメリット・メリットは？(別紙参照)

デメリット・メリットですがメリットが沢山になりすぎてしまいました。在宅生活においてメリットが沢山あるからこそ、定期巡回を広めていきたい、もっと知って欲しい、自宅で最後までと望むご利用者の気持ちにより添っていきたい、前職での悔しさを前向きに捉え、現在があります。

今回の時間では質疑応答の時間が取れないため次回に行いますので目を通して置いて下さい。

●CM から定巡を使うと訪問看護が週1回などになり困るという意見が度々聞かれる。訪問看護として週2回3回の訪問が必要な状態はどのような状態であると考えられるのか？ヘルパーに指示することで週1回での活動でまかなえるものではないのか？意見をお願いします。

山田氏：色々あるが排便管理が週一では困る。二回は必要。

あとは緊急対応。状態が落ち着いていても呼ばれて対応しに行っても定期巡回では単位数は変わらない。医療に変えればと言われるが、規定された疾患が認められ、主治医がご理解頂けないと医療にはなかなか変えられない。本当は週2回3回見たいけれどそれを介護にお願いをして、悪くなってしまうては良くないという不安もある。褥瘡の処置を障害はしてくれるが、介護はどうなのか？そういう事実があると通常の訪問介護との方がやりやすいようにも感じるかもしれない。ケアマネさんが使いにくいと思われるのにはどういう理由があるのか？

浅田氏：利用者側に定額なので使わな損、幾らでも使える、という意識があるように思う。だが実際はボランティアではないので、そこまでは対応不可だという話にもなる。そういった弊害により連携している訪看でも定期巡回はしないと言われることもある。

→医療からの指示があり、定期的な状態観察を必要としないことであれば対応できることも多い。うまく連携を取りながら訪看と一緒に支援をしていければと考えている。

(6)醍醐地域の居宅支援事業所として定巡を使い辛い言うところは以前から単位数や訪看の訪問回数、DSやSSの利用回数が限られる等有ると思うが、定巡を使いながらも、どういったことが出来ると「在宅生活を続けたい」と願う方の思いを叶えることが出来ると思われますか？例えば定巡を利用出来る事、(工夫があれば)出来そうなことなどしっかりアセスメント出来、事業所間で共有し支援出来れば等。

●浅田氏お願いします。

DSやSSの利用目的は大きく「入浴」「社会参加」「介護者のレスパイト」

入浴したいお湯に浸かりたいというニーズがあれば、点数の問題がまず浮上してしまう。

どうしても施設と違って線ではなく点の支援になるので、家族の負担も考えればSSのご利用を考えることになる。

緊急コールが出来ない方も気になる。以前、「見守りカメラ」を使用していた夜間対応型もあり安心できるなと思ったこともあった。(今はそこもその対応は辞められてしまったが)

(7)「判断」をお願いする連絡から「提案」をお伝えする報告へ

開設5周年を迎えクローバーは生まれ変わります。

定期巡回は一日に複数回や毎日訪問することにより、今まで滞在型のヘルパーが週に2, 3回しか訪問していなかった状態からは考えられないほどご利用者の情報があふれてくる。その中で毎日の判断が必要になる場面が増える。その事から今までCMの方々には「毎日連絡来る」と手間を掛けてしまったことが多かったと5年を振り返り、立ち止まり自分たちの活動について考える機会がありました。

今後は社会資源をたくさん知る事や報連相のスキルを上げる事等も行っていき「判断」をお願いするような連絡から「提案」をお伝えする報告へ！クローバーは生まれ変わります。

「在宅生活の限界を引き上げる」これを目標にこれまでに在宅介護の業界が経験したことのない情報量と展開速度を実現し、皆様にご理解いただいて有効に使っていただけるよう挑戦を続けていきます。

次回 R7 年度第 1 回 介護・医療連携推進会議 : 令和 7 年 4 月に予定して

おります。ご協力をお願いいたします。

以上